

利便性向上及び安全対策のための投資について

2019年 6月 14日
あいの風とやま鉄道(株)

2018（平成30）年度における県経営安定基金からの繰入れの残余分を活用し、更なる利便性の向上を図るとともに、平成30年冬期における雪害状況を踏まえ、ハード面での雪への安全対策の充実を図ることとしたい。

記

1. 更なる利便性の向上……2018.12.20利用促進協議会で説明済み

券売機の I C 対応への改造（2019（令和元）年度～2020（令和2）年度）

I C 定期券を購入する場合、窓口の営業時間内に手書きで申し込む必要がある。また、I C カードについても窓口の営業時間内に購入する必要があるため、利用者からは改善の要望も出されている。このため、既設券売機を I C 対応となるようシステム改修し、利便性の向上を図るもの。

・対象機器

当社の20駅全駅における券売機31台

・改造により対応可能となる機能

新規の I C 通勤定期券、継続の I C 通勤・通学定期券の発行、I C カードの発行、I C カードへのチャージ、磁気定期券から I C 定期券への発行替え 等

・概算経費 80百万円

券売機の I C 対応システム改修（2019年（令和元）年度）70百万円

システム改修した券売機の機器設置（2020年（令和2）年度）10百万円

2. 雪への安全対策の充実……2018.6.14及び2018.12.20利用促進協議会で説明済み

投排雪保守用車の整備（2020（令和2）年度）

現在、運用しているラッセル車が製造から45年経過し、老朽化していることから新たに投排雪保守用車を整備するもの。（製造元の製造スケジュールの関係で導入は2020（令和2）年度を予定）

・主要諸元

走行性能 0～25km/h（ローター投雪時）、0～70km/h（ラッセル排雪時）

投排雪量 14,000m³/h以上（ローター投雪時）、100,000m³/h以上（ラッセル排雪時）

・製造価格

300百万円

（このうち国補助分1/3を除く200百万円については、2017（平成29）年度と2018（平成30）年度における県経営安定基金からの繰入れの残余分のうち、それぞれ100百万円を翌年度（2018年度、2019年度）に積立て。）

合 計 1 + 2 = 180百万円